

社団法人日本ビリヤード協会 24 年度事業計画

1 震災に関して

いったん3月で集金し赤十字に送金。期限を区切らず続ける。

2 組織

日本協会は、複数の県体協加盟がないと準加盟の手続きがとれません。県協会の皆様にはぜひ県体協加盟申請の手続きをお願いいたします。NBA には体協加盟助成金がありますのでこれを利用し積極的に体協加盟に取り組んで下さい。

24 年度には NBA 本部が日本体協に加盟する予定です。

3 普及事業

ビリヤードによる高齢者の体力・健康づくりということで、テーブル寄贈、講師派遣などを続けて参りました。高齢者に対する普及は地道でしたが、国体誘致に対し非常に効果があり、活動が実を結んだとも言えましょう。高齢者と若年層は今後もビリヤードの普及においての両輪となります。

高齢者への普及

協会のアピールとしては適切な運動量と、頭を使うことによる認知症防止、コミュニケーション等があります。現在増えている高齢者施設では、入居者のニーズに応える姿勢をとっており、その中にビリヤードも入っているようでいくつかの問い合わせもありました。講師派遣依頼がくればできるだけ協力お願いします。公共の高齢者施設には全撞工の協力でテーブル貸与・贈呈を続けてゆきます。

若年層への普及

児童館などからオファーが来れば極力受けるようにして下さい。

いずれも、一度二度はボランティアでも、度重なるようでしたら本部にご相談ください。多少の補助はできますが、基本は支部としてもやらなければならない事業です。協会所有のミニテーブルは、引っ越し便で送ることができますので、各地のイベントで使うことは可能です。

学校対抗

日本一を決める競技会ですが、学生層の充実を図る目的もあります。補助金を支給してくれる学校も出始め、又優勝旗を学生課で1年間保管していただいた年もありました。学校側が名誉とってくれているわけで、大きな前進です。良い大会を続けてゆくことは更なる前進につながります。

しかしこの2~3年の各地区の状況を伺いますと、予選参加チームが減少傾向にあるよ

うです。震災で中止となりましたが、第 11 回大会は大幅に定員割れの 20 校出場という寂しいものとなりました。学生のビリヤード離れに歯止めをかけなければなりません。

普及事業も、ビリヤード協会が永久に続けてゆかなければならない事業です。

4 選手強化

国際大会の活躍のみならず、長期的にアマチュア、ジュニア層などの選手強化事業を確立させなければなりません。そして選手強化の延長としてワールドゲームズやインドア・東アジア大会の代表選考を取り入れてゆくことができれば、選手選考に関する大きな参考となるでしょう。

5 ジュニア

ここ数年日本のジュニアクラスは層・レベルと共にかなり充実していましたが、その充実したメンバーが徐々にジュニアを卒業し、世代交代を迎えています。このクラスは常に新メンバーが登場していないといけないのですが、全国的に選手層が薄くなっているのが現状です。タレント発掘も協会の重要な仕事であり、また、ジュニアの充実はそのまま普及にもつながります。またジュニア・学生層への普及は体協加盟や地区教育委員会とのつながりが有効な手段であり、組織の発展ともつながりをもってきます。

6 国体記念大会・スポレク

スポレクは昨年度で終了しました。

国体は平成 27 年和歌山まで参加が決定しています。28 年岩手は未定です。

7 大会開催・・・トーナメントスケジュールによる。

本年度東京で世界レディーススリークッション選手権を開催します。

8 大会派遣・・・例年通り世界選手権に代表を派遣。

9 法人制度の変更について

すでに半ばを迎えている法人制度の変更期間ですが、NBA は公益社団法人として申請することになります。今年度申請します。

10 各種委員会

アンチ・ドーピング委員会

実際に検査対象となるトップ選手の属する JPBA と JPBF、そして NBA 本部で構成した委員会で活動しています。今年度は 3 大会で 6 検体の検査を予定しています。それにとまなう TOTO の助成は申請済みです。

新法人移行委員会

全出。

CS 委員会

実際に回転しているシステムにつき、急激に大きく変更することは不可能です。登録倍増を目指し大幅変更の新システムを企画中です。試合に必要なカードではなく、価値を付加したピリヤードファン必携のカードを目指しています。

助成金審査委員会・選手選考委員会

必要に応じ開催します。

協力金委員会

長い間の懸案であった協力金(旧オリンピック基金の発展系)システムが完成しました。今後本委員会で請求および集金業務、そして助成審査を担当します。